

■ 浜田製作

AGV活用で物流自動化提案

S I e r

最前線

浜田製作（大阪市鶴見区、久門進一郎社長）は、40年以上にわたりロボットシステムインテグレーター（S I e r）として活動する。工作機械の加工対象物（ワーク）脱着作業やプラスチック射出成形のワーク取り出し用途を筆頭に、累計で約1350件のシステムを納入してきた。

久門社長は「特に6軸産業用ロボットシステムの提案を得意とする。培ったロボット技術を生かした協働ロボットの案件も最近が増えてきた」とする。

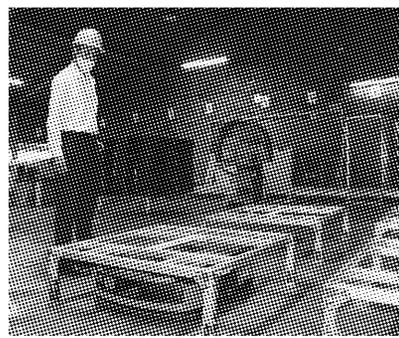
同社は1978年の設立だが、18年に段ボール製造・販売の久門紙器工業（大阪府枚方市）のグループ会社になった。M&A（合併・買収）を推進する久門紙器工業は顧客から人手不足の話をよく聞き、自動化ニーズの必要性を感じ、S I e r 参入を決めた。

久門紙器工業から派遣された久門社長は、ロボットを使った工場自動化（FA）提案で新たな取り組みを進める。同様にグループ化した電子機器・ソフトウェア業のシンワシステム（大阪市東成区）と連携し、無人搬送車（AGV）活用の自動化提案を行う。

23年5月、浜田製作は久門紙器工業の本社工場棟・物流棟の2階をフィールドにし、中国ハイクロボットのAGVを活用した段ボールケースの搬送・保管業務を自動化する実証システムを構築した。床面積で計1000平方メートルの空間に5台のAGVが機敏に動く。

顧客別に段ボールケースを搭載したパレットをAGVが指定場所に移動させ保管、必要時に再び取り出し出荷する仕組みだ。AGVシステム導入で搬送・保管業務は3人から原則1人で対応可能にし、重労働もなくなった。

「実際に動くAGVの物流システムを現場で見てもらえるのは大



中国ハイクロボットのAGVを活用し物流自動化を提案（久門紙器工業の工場内）

きい」と久門社長は強調する。見学は1日数件ペースで対応する。ハード・ソフトを含むAGVシステムの受注価格は1000万円台からを想定。23年度は2件、24年度は5件の販売を目指す。

久門紙器工業で工場長経験もある久門社長は生産現場を熟知する。現場視点のロボットシステムを拡大し、今後の成長を目指す。

【企業概要】

▷所在地=大阪市鶴見区今津中3の10の8▷資本金=1000万円
▷売上高=2億5000万円（22年11月期）▷従業員=21人▷設立=78年（昭53）12月